

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 5 月 20 日現在

機関番号：32617

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2009～2012

課題番号：21720306

研究課題名（和文） 中国における回族の宗教的・経済的ネットワークと地域社会の変容に関する研究

研究課題名（英文） Study on the religious and economic networks of the Hui and the change of local communities in China

研究代表者

高橋 健太郎（TAKAHASHI KENTARO）

駒澤大学・文学部・准教授

研究者番号：30339618

研究成果の概要（和文）：

中国回族の地域社会の間には、民間団体の貧困者救済や、出稼ぎや学習のための人口移動、政府主導の集落移転などによって、さまざまな宗教的・社会的ネットワークが形成され、人や物、金、情報が移動していることを、主にフィールドワークによって明らかにした。これらのネットワークには、回族がムスリムのマイノリティであるということに起因する特徴が見受けられ、また地域社会の持続と変容に影響を与えている。

研究成果の概要（英文）：

The author studied the religious and economic networks among local communities of the Hui in China, which are built through various activities such as poverty alleviation by private organizations, migration for working and studying, and settlement relocation under government leadership. These networks increase the movement of people, goods, money, information and knowledge between the Hui communities. Since the Hui is a Muslim minority, these networks contain characteristics resulted from such states, and help the Hui to maintain their local communities.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009 年度	1,400,000	420,000	1,820,000
2010 年度	700,000	210,000	910,000
2011 年度	700,000	210,000	910,000
2012 年度	700,000	210,000	910,000
総計	3,500,000	1,050,000	4,550,000

研究分野：人文科学

科研費の分科・細目：人文地理学・人文地理学

キーワード：人文地理学，中国，回族，地域社会，社会ネットワーク

1. 研究開始当初の背景

(1) 中華人民共和国（中国）における回族 [Huizu] の総人口は約 1 千万人である。その居住分布には「大分散、小集居」の特徴があり、中国全体に分散的に居住しているが、都

市の一区画や農村の一集落程度の空間スケールで、モスク（清真寺）を中心に集まって居住し、寺坊や教坊、ジャマーティなどと呼ばれる地域社会を形成している。それら地域社会の間には、イスラームの宗教知識人や宗

教組織、婚姻、労働者の移動、民間の新聞と雑誌、喜捨（宗教的寄付）による貧困者支援などの多様な宗教的・経済的ネットワーク、つまり広義には社会ネットワークが存在し、それらによって人や物、金、情報、知識などの移動が生じている。漢族が強い影響力を持つ中国においてマイノリティの立場にある回族にとって、自身の地域社会や宗教的・民族的アイデンティティの維持のために、このような宗教的・経済的ネットワークは重要な意味を持つ。

(2) しかし、中国の改革開放以降、特に西北地方では1990年代後半からの「西部大開発」以降、社会ネットワークと地域社会にさまざまな変容が生じている。まず、農山村地域においては、貧困の緩和や環境保全を目的として、山間部から平野部へ集団移住や集落移転が行なわれている。このような移住にともなって、これまで比較的閉鎖的であった山間部農村の回族地域社会においても、より広域的な社会ネットワークが形成され、人や情報の移動が活性化している。

(3) さらに、内陸部農村から沿海部都市への人口移動による回族の宗教的・経済的ネットワークの拡大、およびそれにもなう移住元と移住先双方の地域社会の変容も見受けられる。これまで、中国におけるこのような人口移動は、主に「民工」という安い労働力の供給としてとらえられ研究されてきた。しかし、西部大開発の進展にともない、西部地域に居住する少数民族の人口移動が活発になってきていることから、移民の文化的側面にも注視し、少数民族のネットワークや地域社会の変容という視点からも、農村から都市への人口移動を考察する必要がある。

2. 研究の目的

本研究では、中国回族の宗教活動や貧困者救済、集団移住等によって構築される地域社会の間のネットワークを把握し、それらが回族の地域社会や宗教的・民族的アイデンティティの維持と変容にどのような影響をもたらしているかを考察する。具体的には、宗教的ネットワークとして、回族のアホンやハーリーファ、マンラーなどのイスラームの宗教知識人が地域社会の間を移動することによってもたらされる人や情報、知識の移動を考察する。また、「回族救助会」や「回族福利協会」などの民間組織による貧困者救済の活動にともなう広域的な地域社会の結びつき、および「扶貧移民」や「生態移民」と呼ばれる集団移住や集落移転を契機に構築される山間部と平野部の間の人や物の移動などを考察する。さらに、中国の内陸部と沿海部との間の回族の移動やネットワークの構築につ

いても研究する。これらにより、中国における回族の宗教的・経済的ネットワークの実態と回族地域社会の変容についての考察を試みる。

本研究では、地理学のマルチ・スケールの視点にもとづいて、回族の広域的な宗教的・経済的ネットワークと、それらが地域社会や住民に与える影響の両方について考察することから、中国の地域や民族に対するより深い理解に貢献できると考えられる。

3. 研究の方法

(1) 本研究の主な研究方法は、論文や書籍、統計、地図などの文献資料の収集と分析、および回族地域社会でのフィールドワークである。資料収集は、日本の図書館や書店、ウェブ上のデータベースなどで随時行なった。また、中国でのフィールドワークの際には、中国の大学や研究所、書店、行政機関、民間団体などでも資料を収集した。収集した資料は、表やグラフ、地図などを作成し分析し、フィールドワークの基礎資料としたり、フィールドワークで得た知見を補完するために用いた。

(2) フィールドワークは、中国青海省（2009年度）と寧夏回族自治区（2011年度）、吉林省および遼寧省（2012年度）で行なった。

青海省では、貧困地域の農村部において回族やサラール（撒拉族）などのムスリムの教育や医療を支援している民間団体において聞き取りを行ない、それらの団体の成立過程や活動内容を調べた。また、当該団体の実際の活動を参与観察し、その特徴や課題を把握した。さらに、聞き取りにより、ハラール（清真）・レストランの経営者や料理人、給仕、貿易会社のアラビア語通訳などとして働いたり、大学生として学校に通うために、青海省から中国沿海部へ移動している回族の実態についても調査した。

寧夏回族自治区においては、山間部と平野部の農村集落や行政機関を訪問し、生態移民や新農村建設などの政策による人口移動と回族の社会ネットワークや地域社会の変容との関係について聞き取りと資料収集を行なった。

吉林省と遼寧省においては、回族地域社会やモスク、市場などにおいて、回族をはじめとするムスリムの他地域からの転入および東北地区から他地域への転出について、そしてそれらにもなう地域社会の変容と社会ネットワークの形成について聞き取りと資料収集を行なった。

(3) 本研究テーマのような質的情報を重視する研究においては、文献資料としてまとめられていない情報も有用であり、できるだけ

多様な情報源から明文化されていない情報や資料を入手する必要がある。そのため、中国において、大学や研究所の研究者や民間の郷土史家、イスラームの宗教知識人などと交流し、情報収集も行なった。これらの情報は、文献資料と同様に、フィールドワークの基礎資料としたり、フィールドワークで得た知見を補完するために用いた。

4. 研究成果

(1) 文献資料より、中国の西部大開発によって西部地区においては、電力や天然ガス網、高速道路や鉄道、インターネットなどのインフラストラクチャーの整備が進み、建設業や製造業、小売業などの産業が成長し住民所得も増加したが、東部沿海部と西部内陸部、および都市と農村の間の経済格差、生活格差は依然として大きく、さらに格差は拡大の傾向にあることが確認された。

(2) フィールドワークによって、中国各地の回族地域社会の間にはさまざまな宗教的・経済的ネットワークが形成されていることが明らかになった。

例えば、青海省においては、「回族撒拉族救助会」など、回族を中心として組織されている民間団体によって、貧困農村の支援が進められている。その主な活動は、都市のムスリムの企業や個人からの寄付を財源として、貧困農村の医療や高齢者福祉の拡充や、子どもの進学支援、災害時の復旧・復興支援などである。これらの取り組みは、行政だけでは十分に行なうことができている農村の貧困者支援や、都市・農村格差の是正に対して、ムスリムが自らの価値観と手法を用いて対応していることから、近年の新しい変化であり、注目に値する。また、このような取り組みにより、都市と農村の間に新しいネットワークが作られ、人、物、金、情報などの移動が生まれている。

また、青海省でのフィールドワークにより、ハラル・レストランの料理人や商人、通訳としての人口移動によって、内陸部と沿海部、都市と農村の間に、回族のネットワークが形成されていることがわかった。移住先での回族の就業形態は、イスラームの影響を強く受けた食文化やイスラーム信仰のよりどころとなるアラビア語に関連していることから、移住によって回族の宗教的・民族的アイデンティティが再確認されている。また、青海省から沿海部の大学に進学した回族学生は、進学先で同郷ムスリム間のネットワークを形成し、日常的な情報交換を行なうとともに、金曜礼拝やラマダーン月の断食、イスラームの祝祭などの宗教活動を集団で行なっていることがわかった。このような回族学生の間

のネットワークも、宗教的・民族的アイデンティティの維持と強化につながっていると考えられる。

(3) 吉林省や遼寧省でのフィールドワークから、回族の場合、内陸部から沿海部への人口移動のみでなく、イスラーム知識を学ぶために東部地区から西部地区への移動があることも確認された。その理由は、寧夏回族自治区や甘肅省、雲南省などの西部地区は、イスラームの宗教文化が比較的継承されており、また宗教学校やモスクなどイスラーム知識を学ぶことができる施設も比較的充実しているためである。このような回族の人口移動によって、内陸部と沿海部の回族地域社会の間で新しいネットワークが形成され、人や情報の移動が生じている。このような移動については、漢族を中心とした従来の研究ではほとんど指摘されていないことから、回族などイスラームの影響を強く受けた民族の人口移動とネットワーク形成の特徴として指摘できる。

さらに、イスラームや民族文化に関する民間の刊行物やインターネット、SMS、SNSなどを介して知識や情報のネットワークも強化されていることもわかった。これは、中国において情報インフラストラクチャーが整備されてきた2000年代以降の変化であり、今後さらに活性化することが推察される。

(4) 寧夏回族自治区でのフィールドワークによって、政府主導による大規模な集落移転と地域開発により、回族地域社会が大きく変容していること、および移動元と移動先の間で新しい社会ネットワークが形成されていることも明らかになった。そして、移住の際、日常生活においてイスラームの影響を強く受けている回族にとっては、所得向上や農業経営条件の改善のみではなく、日々の礼拝や祭日の儀礼などの宗教活動を順調に行なうことができるモスクなどの施設と環境を強く望んでいることがわかった。特に、中国西北地方の回族には、カディリーヤやジャフリーヤ、フフィーヤなど多数の門宦[menhuan]という中国のスーフィー教団、およびイフワーニやカディームなどの教派[jiaopai]が組織されていて、それぞれの間にはイスラームの宗教実践や考え方に差異がある。そのため、集落移転によって、複数の集落の住民が一つの新しい集落に移転した場合に、住民間で、モスクの運営や宗教活動のやり方をめぐって不和や摩擦が生じている事例もある。そのため、地域開発に際して、経済的効率のみでなく、マイノリティの社会や文化に配慮した政策がとられることを今後も注視していく必要がある。

(5) 総じて、中国の急速な経済成長や大規模な地域開発にともない、回族の人口移動は活発になり地域社会も変容している。各地の回族地域社会の間の宗教的・経済的ネットワークの形成と強化は、回族の宗教的・民族的アイデンティティの維持や継承に寄与しているように見受けられる。一方で、再開発によって回族地域社会が弱体化したり、移動によって自身の地域社会と疎遠になったり、または住民の価値観の変化などにより、イスラームの宗教活動や宗教教育を重視せず、宗教的・民族的アイデンティティも薄れている回族も増えているようである。このような回族に見られるアイデンティティの多様化や重層化について、中国全体の政治や経済、社会の変容と関連づけながら、今後も考察を続ける必要がある。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 2 件)

- ①高橋健太郎、書評：四川省の地域変容を多面的にとらえた研究論文集『変わり行く四川』、東方、第 353 号、査読無、2010、26-29.
- ②高橋健太郎、書評：丁克家・馬雪峰『世界視野中的回族』(『世界の視野の中の回族』)、イスラーム地域研究ジャーナル、第 2 巻、査読無、2010、97.

[学会発表] (計 4 件)

- ①高橋健太郎、長春市における回族地域社会の持続と変容、日本地理学会 2013 年春季学術大会、2013 年 3 月 29 日、立正大学熊谷キャンパス.
- ②高橋健太郎、中国寧夏回族自治区における聖者廟参詣の活性化、中央大学人文科学研究so・政策文化総合研究所共催公開研究会、2012 年 1 月 29 日、中央大学駿河台記念館.
- ③高橋健太郎、『変わり行く四川』合評会：7・8 章についての批評、2010 年日本地理学会春季学術大会 中国地理研究グループ研究例会、2010 年 3 月 28 日、法政大学市ヶ谷キャンパス外濠校舎.
- ④高橋健太郎、中国回族の聖者廟参詣、第 18 回中央ユーラシア研究会、2009 年 11 月 21 日、東京大学本郷キャンパス.

[図書] (計 3 件)

- ①中国ムスリム研究会編、『中国のムスリムを知るための 60 章』(高橋健太郎、全体的な編集および第 2、28、54 章、用語集の執筆)、2012、明石書店、369 ページ.
- ②上野和彦編、『世界地誌シリーズ 2. 中国』(高橋健太郎、第 9 章「西部開発—中部・

西部—」の執筆)、2011、朝倉書店、167 ページ.

- ③石原潤編、『西北中国はいま』(高橋健太郎、序論第 2 節、第 2 章第 2、4 節、第 4 章第 2 節の執筆)、2011、ナカニシヤ出版、230 ページ.

6. 研究組織

(1) 研究代表者

高橋 健太郎 (TAKAHASHI KENTARO)

駒澤大学・文学部・准教授

研究者番号：30339618